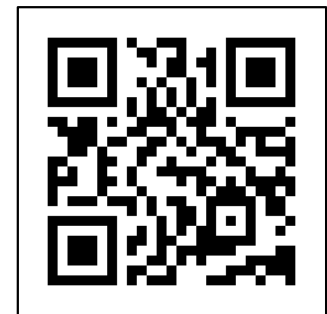




北谷ゲートウェイ

(観光 2 次交通結節点)



↑ 専用WEBサイト

1. 事業概要

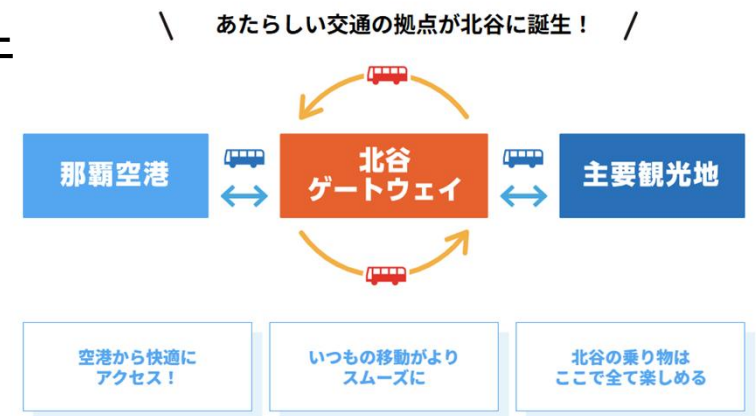
(1) 背景・目的

- ◆ 沖縄観光における交通手段は、レンタカーが主流となっているが、レンタカーは自由に移動したいという観光ニーズを満たす一方、ペーパードライバーなど運転に不慣れな国内観光客や交通ルールの異なる外国人観光客の利用などにより、交通事故の発生やマナー違反などの問題が顕在化している。
- ◆ また、インバウンドの増加や高齢化等により、今後は、運転免許を持たない観光が増加していくことが見込まれる。
- ◆ こうしたことから、多様な交通手段が選択でき、誰もが快適に沖縄観光を楽しめるよう観光2次交通の機能強化を図る必要がある。
- ◆ そのため、沖縄県では、「第6次沖縄県観光振興基本計画（令和4年7月）」及び「沖縄県地域公共交通計画（令和6年5月）」において、主要な観光拠点である北谷町を観光2次交通結節点として位置付けている。
- ◆ 本事業では、観光2次交通結節点「北谷ゲートウェイ」を実証的に設置し、ターミナルとしての運用を行うとともに、那覇空港からの直行バスや美浜エリア周遊バスの運行等を通じて、観光客の移動利便性の向上を図る。
- ◆ 実証期間：令和6年7月25日～令和8年3月31日

(2) 期待される効果

本実証事業により、以下のような効果が期待される。

- ① シームレスかつ多様な交通手段を確保することによる**観光客の移動利便性**の向上
- ② 見知らぬ土地で自ら運転しなくても安心して移動できる**公共交通の利用促進**
- ③ 観光拠点エリア間の移動円滑化による**周遊性の拡大・観光消費額の向上**
- ④ 公共交通の利用促進による**那覇空港の渋滞緩和**

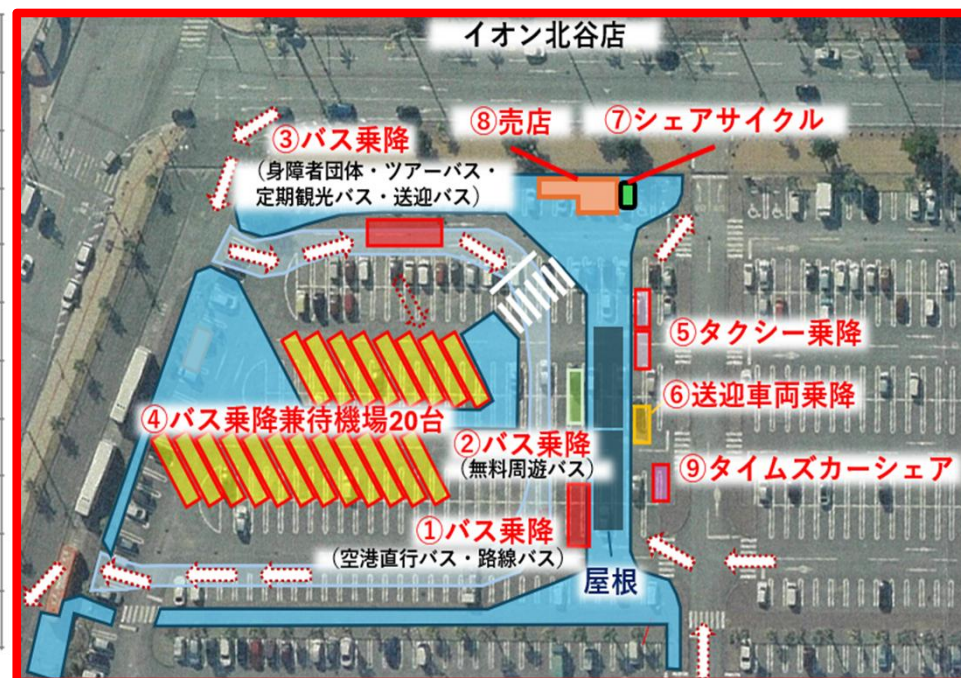


(3) 実証事業の内容

1) 観光2次交通結節点「北谷ゲートウェイ」の設置・運営

ターミナル機能

①空港直行バス／路線バスのりば	→R8年3月終了
②無料周遊バスのりば	
③バスおりば／ツアーバス／定期観光バス／送迎バス／身障者団体のりば	
貸切バス乗降場／駐車場（15台）	
タクシーのりば（1台）	
シェアサイクルポート（6台）	
タイムズカーシェア（1台）	
トヨタカーシェア（1台）	
パーク＆ライド駐車場（10台）	
売店（交通アテンダントが運営） ※営業時間 10：00～17：30	



乗り入れている路線バス（令和8年3月時点）

系統／名称	運行会社	運行区間	便数
TK05北谷直行シャトルバス	東京バス	那覇空港－国際通り－北谷ゲートウェイ	12便／日
路線バス43系統	沖縄バス	豊見城営業所－那覇BT－パルコシティ－北谷ゲートウェイ	1～5便／日
路線バス143系統	沖縄バス	那覇空港－那覇BT－パルコシティ－北谷ゲートウェイ	12～15便／日
空港リムジンバス（Aエリア）	沖縄バス	那覇空港－那覇BT－宜野湾エリアホテル－北谷エリアホテル－北谷ゲートウェイ	3～6便／日
北谷ライナー	カーリー観光	那覇空港－とまりん－宜野湾エリアホテル－北谷ゲートウェイ	5便／日
北谷アドベンチャー ハイウェイバス ※沖縄県実証	琉球バス 沖縄バス ※共同運行	北谷ゲートウェイ－ジャングリア沖縄－記念公園前	2便／日

(3) 実証事業の内容

2) 那覇空港からの直行バス運行

那覇空港から北谷ゲートウェイまで観光客がスムーズに移動できるよう、令和6年7月25日から令和7年2月28日の期間、沖縄県の実証運行として那覇空港からの直行バスを運行した。（現在は民間バス事業者により自走化）

3) 美浜エリア無料周遊バスの運行 →R8年3月終了

直行バス等で北谷ゲートウェイを訪れた観光客が美浜エリア内のホテルや商業施設へ移動できるよう、美浜エリア内を巡回する無料周遊バスを運行した。

令和6年度は試行的に様々な形態（土日祝限定運行、ミハマシャトルカートによる運行等）で運行したが、令和7年度は多頻度運行による利用者増を目指すため、マイクロバス・ハイヤー車両にて毎日28便を運行した。

4) 北部方面への直行バスの運行

北谷ゲートウェイを拠点とした観光客の移動利便性を向上させることを目的に、北谷ゲートウェイから人気観光地である「沖縄美ら海水族館」、令和7年7月25日に開業したテーマパーク「ジャングリア沖縄」を結ぶ直行バス（通称：北谷アドベンチャーハイウェイバス）を、令和7年9月1日から1～2往復／日（※繁忙期は2往復）実証運行を開始した。

→R8年度は、10月頃に北谷ゲートウェイ～観光地（例.首里城）への実証を予定

5) 北谷ゲートウェイ発着旅行商品の造成・販売

美浜エリアに滞在する方へ多様な移動手段を提供する一環として、北谷ゲートウェイ発着の旅行商品（バスツアー）を造成、販売

①北谷ゲートウェイ発着バスツアー ②ドラゴンライナー

6) レンタカー連携プランの造成・販売

那覇空港周辺道路の混雑緩和を目的に、那覇空港から対象の路線バス（東京バスTK05、沖縄バス空港リムジンバス、沖縄バス43/143系統、カーリー観光北谷ライナー）を利用して北谷ゲートウェイまで来た方を対象に、オリックスレンタカー北谷フィッシャリーナ店およびトヨタレンタカー北谷店の2店舗と連携し、割引プランを販売した。

7) 北谷ゲートウェイの周知広報

2. 事業効果

(1) バス路線新設・移行による利便性向上

①那覇・空港－北谷ゲートウェイ間の路線

令和6年7月
(北谷ゲートウェイ設置前)

那覇・空港と美浜エリアを結ぶバス
13便／日

【既存路線】

- ・空港リムジンバス（沖縄バス）：8便／日
- ・らくらくバス（カーリー観光）：5便／日



令和8年2月末時点

那覇・空港と美浜エリアを結ぶバス
39便／日

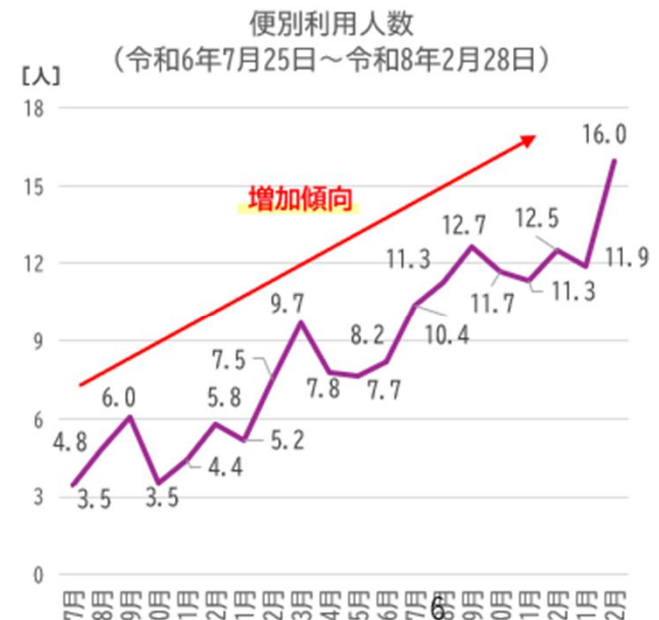
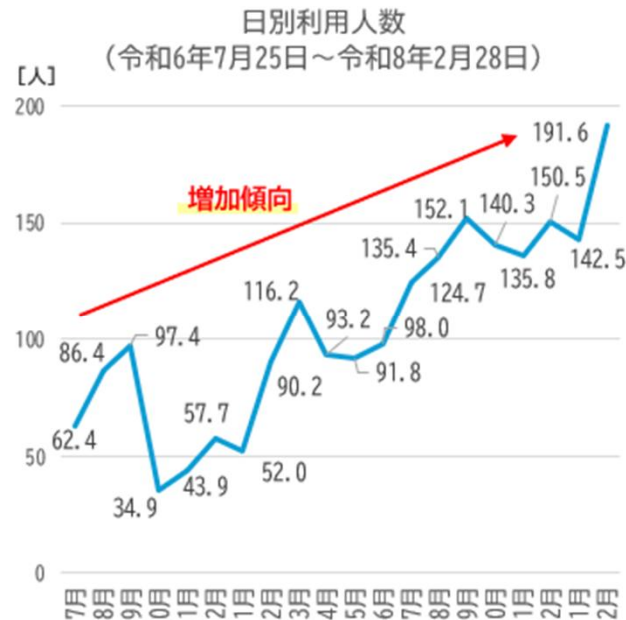
【既存路線】

- ・空港リムジンバス（沖縄バス）：4便／日
※令和7年4月1日より北谷ゲートウェイへの乗り入れ開始
- ・らくらくバス（カーリー観光）：5便／日
※令和7年4月1日より北谷ゲートウェイへの乗り入れ開始

【新設・移行路線】

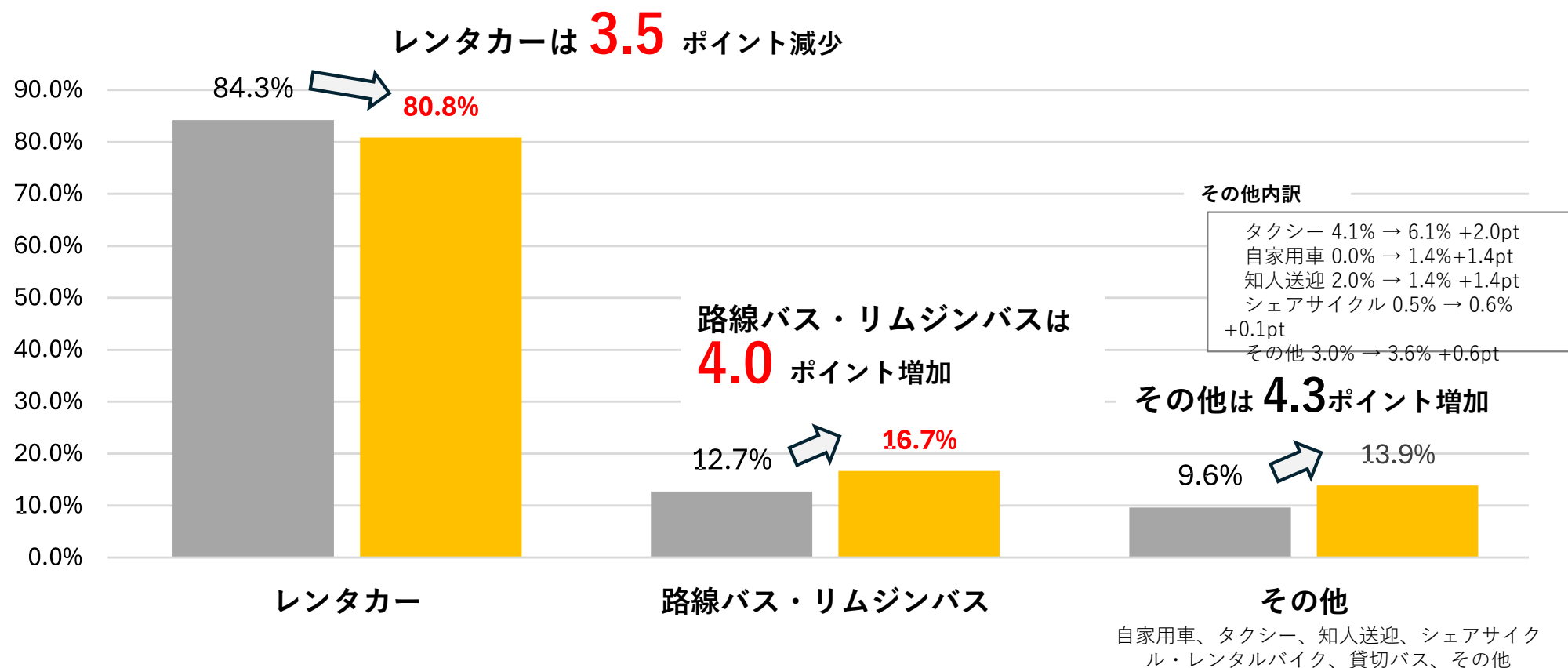
- ・TK05（東京バス）：12便／日
- ・43系統（沖縄バス）：5便／日
- ・143系統（沖縄バス）：13便／日

②那覇・空港－北谷ゲートウェイ間の利用者数増加（東京バスTK05）



(2) 公共交通の利用促進

- 美浜アメリカンビレッジに宿泊した方のうち比較可能な、国内県外客を対象としたアンケート調査結果より、本実証前後の美浜アメリカンビレッジの行き・帰りに利用した交通手段の分担率を確認した。
- アンケートの結果、レンタカーの利用は84.3%から80.8%へ3.5ポイント低下し、路線バスの利用は12.7%から16.7%へと4.0ポイント増加した。



■ 実証前 令和5年度 国内県外 宿泊施設受取 N=197

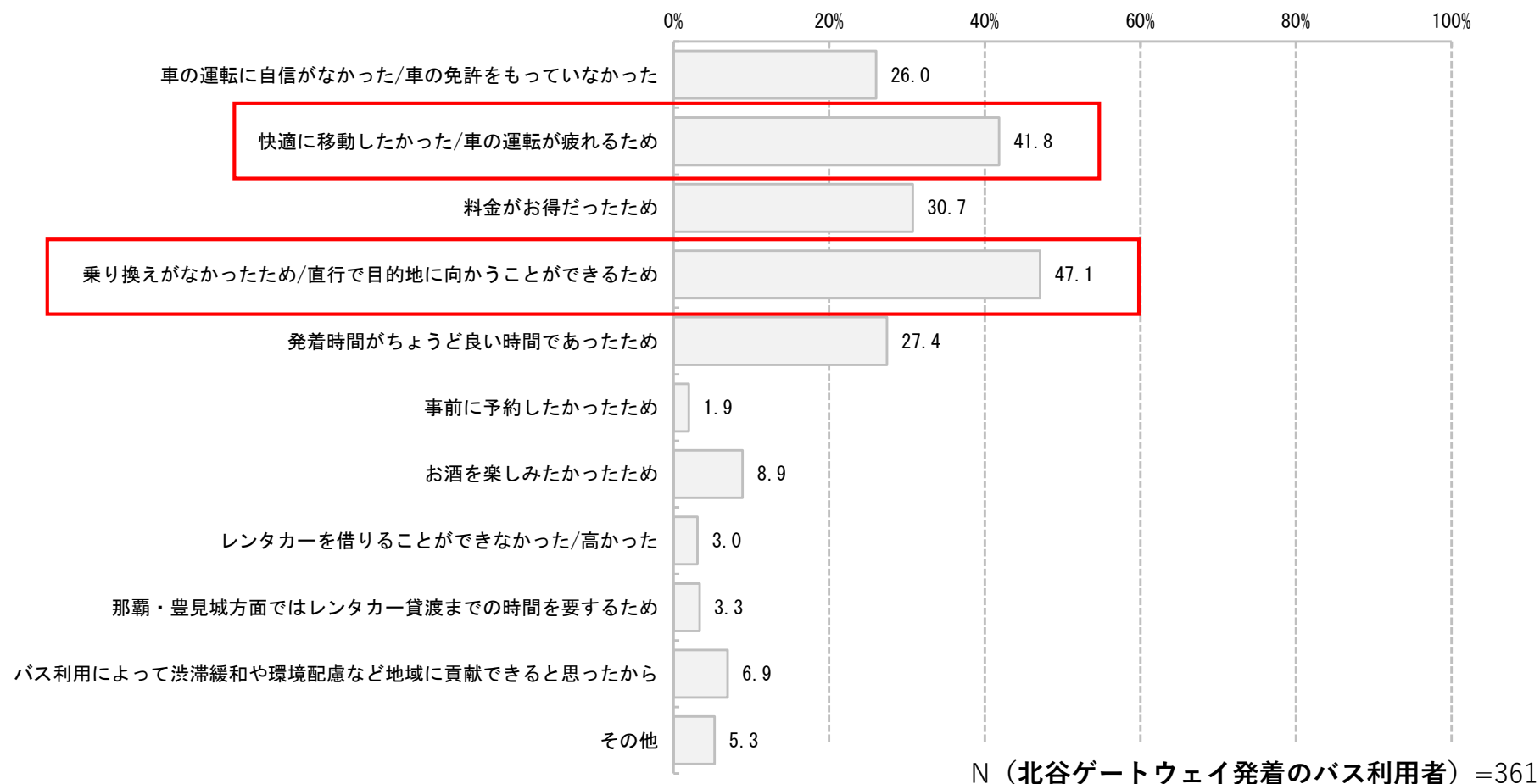
■ 実証後 令和7年度 国内県外 宿泊施設受取 N=360

北谷ゲートウェイ実証前後の移動手段の利用状況

(3) 観光客の満足度向上

1) 北谷ゲートウェイ発着の路線バス・リムジンバスにて移動した理由

- 北谷ゲートウェイ発着の路線バス・リムジンバスにて移動した理由では、「乗り換えがなかったため／直行で目的地に向かうことができるため」が最も多く47.1%、次いで「快適に移動したかった／車の運転が疲れるため」が41.8%であった。また、「車の運転に自身がなかった／車の免許をもっていなかった」は26.0%であった。
- 移動利便性や快適性を求めていると推察される。

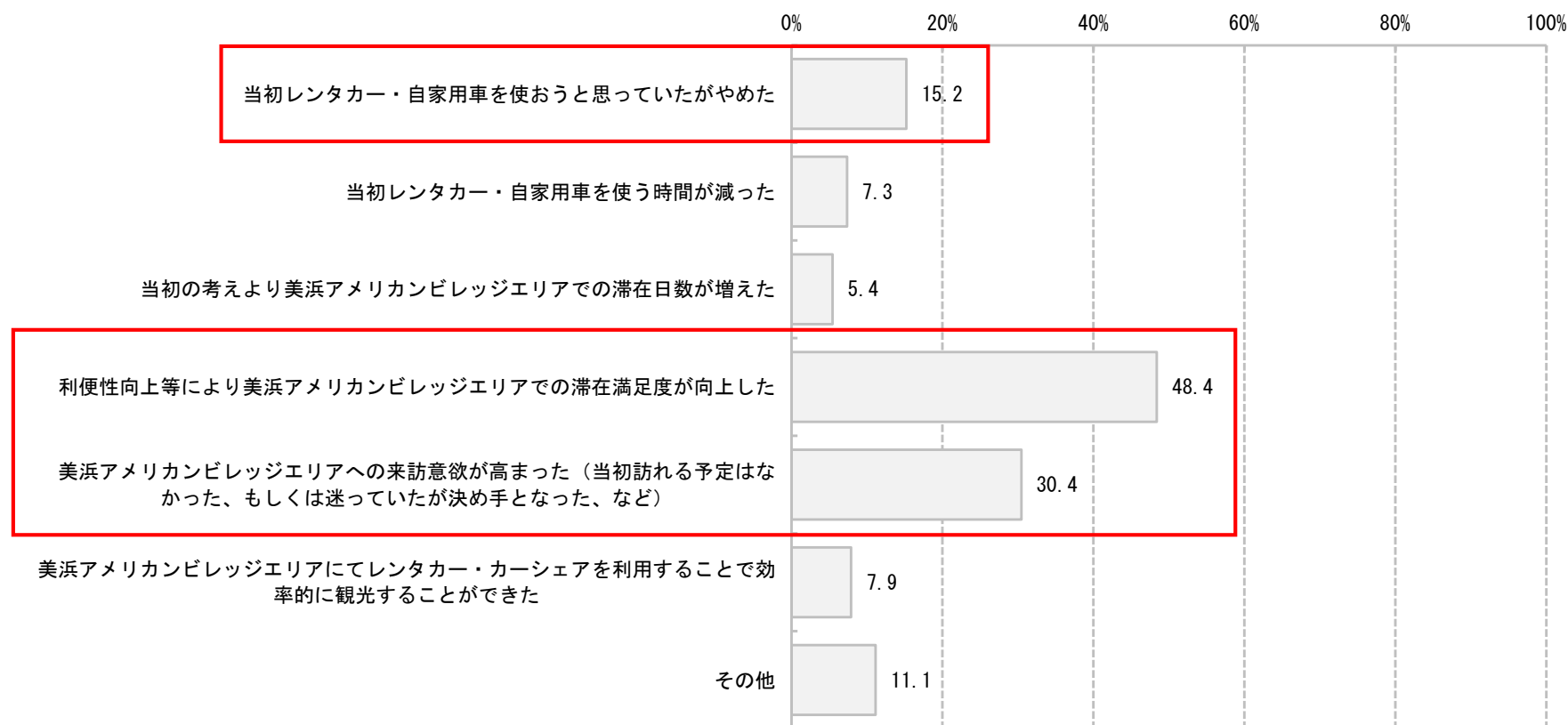


【北谷ゲートウェイ発着の路線バス・リムジンバスにて移動した理由】
(令和7年度 北谷ゲートウェイ利用者)

(3) 観光客の満足度向上

2) 北谷ゲートウェイ及び北谷ゲートウェイ発着のバスを利用したことによる移動手段や観光プランの変化

- 「利便性向上等により美浜アメリカンビレッジエリアでの滞在満足度が向上した」が最も多く48.4%、次いで「美浜アメリカンビレッジエリアへの来訪意欲が高まった」が30.4%であった。
- また、「当初レンタカー・自家用車を使おうと思っていたがやめた」が15.2%であった。



N（北谷ゲートウェイ及び北谷ゲートウェイ発着のバス利用者）=368

【北谷ゲートウェイ発着のバスを利用したことによる移動手段の変化】
（令和7年度 北谷ゲートウェイ及び北谷ゲートウェイ発着のバス利用者）

(4) 実証事業実施に伴う美浜駐車場への影響

- ◆北谷ゲートウェイの設置に伴い、美浜駐車場の駐車可能台数は1,463台から1,218台へと245台減少している。
- ◆特に、利用の多い土日については、混雑・満車近くになる状況が北谷ゲートウェイ設置後に大きく増加しており、駐車場利用者の利便性や利用満足度の低下が懸念される。
- ◆また、混雑時には、他の駐車場を探す車両による周辺道路の混雑・渋滞の発生も確認された。このような課題は、北谷ゲートウェイ設置前から散見されており、こうした課題がさらに顕著となっていることが懸念される。
- ◆美浜エリアの宿泊者（県内在住者）に対するアンケートでは、「美浜エリアの観光・移動の利便性向上のために重要と考えられる取組」について、半数近くが「駐車場容量不足等によるうろつき渋滞の削減やエリアの発展に向けた駐車場機能拡充」と回答しており、重要な課題として認識していることが確認された。また、駐車場の容量拡大については、以前より要望がある状況となっている。
- ◆このため、事業実施に伴う影響を把握するための各種調査を通じて、引き続き状況を注視するとともに、観光2次交通結節点の設置場所については、効果検証を進めながら、適切に見極めていく必要がある。

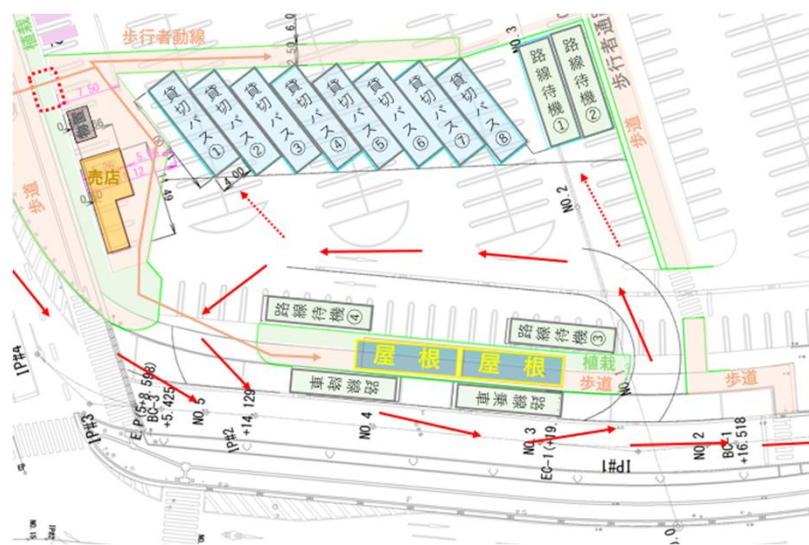
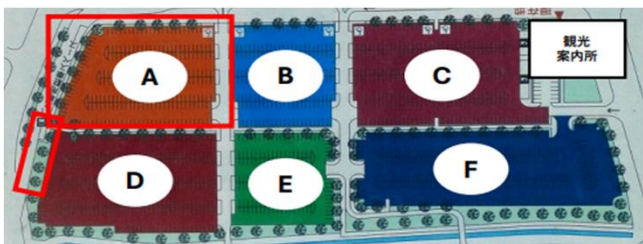
【北谷ゲートウェイ設置前後の美浜駐車場の土日の混雑・満車状況】



< 美浜公共駐車場混雑の様子 >

2. 令和8年度事業について

令和 8 年度暫定レイアウトにて暫定設置、運営



【R8年度主な取組内容】

- R8年度は、美浜駐車場の影響を考慮しレイアウトを変更し運用する。貸切バス駐車分は、北谷町旧消防跡地を使用する。
- 主要観光地との接続強化
北谷ゲートウェイ―首里城間のバス実証運行
- 本格整備に向けては、交通機能結節点のあり方や北谷町における美浜駐車場機能強化の考え方を踏まえ、県と北谷町にて検討を進める。

駐車可能台数	北谷ゲートウェイ 実証前	1,463台
	北谷ゲートウェイ 実証後	1,218台 (北谷ゲートウェイ分245台減(17%分))